

ごみステーションのカラス被害を防ぐには

カラスは、肉や揚げ物などの生ごみのほか、マヨネーズ容器やポテトチップの袋などに付着している脂分を狙い、視覚で餌を探します。横からつつき、引っ張るのが得意です。

ごみを荒らされてお困りの方は、地域で話し合いを行い、以下の方法を参考にして対策を講じてください。

カラス被害を防ぐには、ごみ出し方法の工夫が効果的です。

方法1 生ごみを減らす

生ごみはカラスにとっては食料になります。生ごみが少ないまたは見えないごみステーションにはカラスは寄り付きません。食材はできるだけ使い切り、食べ残しもないようにして、生ごみを出さない工夫をしましょう。

また、生ごみ減量処理機やコンポストを使って、生ごみ減量・リサイクルをしましょう。

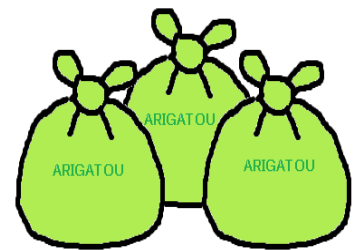
方法2 市指定のごみ袋を使い、ごみ出しの時間を守る。

市指定のごみ袋を使い、袋の口をしっかり縛り中身が出ないようにしましょう。

前日の夜間にごみ出しを行うことは、カラスの被害を受けやすくなります。

長時間ごみステーションに出されることにより、猫が荒し、その後にカラスが荒らすことがあります。

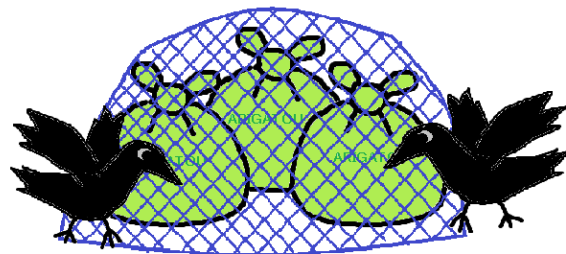
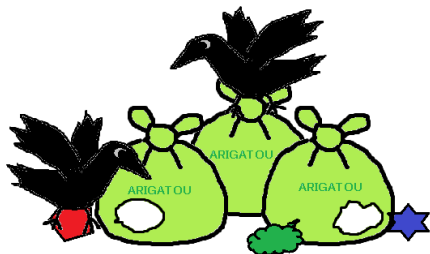
きれいな環境を維持するためにも、ごみ出しの時間を守りましょう。



方法3 防鳥ネットを使用する。

防鳥ネットはカラスを近づけさせない効果的な方法です。

防鳥ネットを使用するときは、ごみ袋をネット内にきっちりと納め、はみ出さないよう注意します。



5mm以下の細かい網目の物で、ごみ袋全体をおおうことのできる大きさのものが適しています。網目が大きすぎると隙間からつつかれます。

網の裾に鎖の重しを取り付けるとネットが風でめくれたり、飛ばされたりしません。

通行の邪魔にならないように管理してください。



方法4 ごみ箱に入れる、ごみの周りをおおう

集合住宅の専用ステーションでは、ごみ箱を使用すると効果的です。

また、ごみの周りを板などでおおって、カラスがつけなくなるカラスよけサークルがより効果があります。

その他、指定袋の内側に最小限のチラシを入れてごみを隠してしまうと、つつかれなくなります。

